

鹿児島県宇検村・倉木崎遺跡の調査と視察について

1. 日 時 平成26年10月17日(金)～10月29日(水)
2. 場 所 倉木崎遺跡(鹿児島県大島郡宇検村)
3. 内 容 貿易陶磁器が多数引き揚げられた倉木崎海底遺跡において砂底下に埋没していると想定される遺物の検出を目的とする。合わせて水中探査技術評価を行う。調査法: 1) 水中磁気探査 2) 水中金属探知機調査 3) 水中音波探査の併用
4. 実施主体 九州国立博物館(協力: 宇検村教育委員会)
5. 視察日程 第1回 10月18日(土)～20日(月)
第2回 10月25日(土)～27日(月)
6. 視察内容
 - ・上記期間のうち、2泊3日(1泊2日も可)
 - ・航空券等は各自ご準備ください。宿泊は当方で予約します。
(奄美空港へは羽田・伊丹・福岡・鹿児島・那覇の各空港からそれぞれ直行便がありますが、便数に制限がありますのでご注意ください)
 - ・奄美空港からは、車で現地までご案内します(約2時間)。
 - ・後日出欠(日程)をお伺いします。
 - ・旅費等は後日、文化庁から支給します。
7. 連 絡 現地での対応
九州国立博物館 今津節生(092-918-2819)
現地以外での対応
文化庁記念物課 水ノ江・林(03-5320-4111 内線2879)

倉木崎遺跡における水中遺跡探査について

1. 倉木崎遺跡について

当該遺跡は、宇検村の焼内湾口の枝手久島北側海峡に位置し、多数の中国陶磁器片が水深1-4mの海底およそ300x100mの範囲に散乱することが確認されている。確認調査は宇検村教育委員会が主体となり、青山学院大学の協力を得て平成7年度から10年度の4年間にわたって実施された。その結果、中国浙江省龍泉窯系及び福建省同安窯系の青磁と白磁を含む12世紀後半から13世紀前半の中国南宋時代の陶磁器約2300点が確認されている。遺物の様相は、中世交易船の積荷との関連性を示し、積荷の投棄や船が座礁した可能性があることがこれまで指摘されている。

2. 水中遺跡探査について

近年の水中探査技術の向上と諸外国における水中遺跡調査への応用を勘案し、特にこれまで日本で実践例がない海洋磁気探査の評価を目的とした調査を、倉木崎海底遺跡において実施する。

一方で倉木崎海底遺跡には珊瑚が群生していることから、その保全の観点からの水中調査の困難さが報告されている。サイドスキャンソナー、サブボトムプロファイラー、磁気探査に代表される非破壊事前調査法による遺跡の実態解明が、このような環境下で、どう有効であるかを確認することを視野に入れている。

3. 調査期間 平成26年10月17日～29日

4. 調査内容

- | | |
|--------------|--------------------------------------------------------|
| 水中磁気探査 | 海底面あるいは海底面下の交易船の船体及び積荷に関する鉄製遺物の検出。 |
| 水中金属探知機調査 | 海底面あるいは海底面下の交易船の船体及び積荷に関する金属性遺物(非鉄製遺物含む)の検出。 |
| サイドスキャンソナー | 枝手久島北側海峡の西側(東シナ海側)と東側(焼内湾)の深度が深い場所の海底面を調査。 |
| サブボトムプロファイラー | 海峡浅瀬海底面下の異常反応検出。鷹島海底遺跡以外での浅海用地層探査装置(サブボトムプロファイラー)の有効性。 |

5. 超高精細映像(8K)による水中遺跡の撮影

探査の期間中に併せて、現在開発が進み次世代映像技術と位置づけられているスーパーハイビジョン(8K)での活用を考慮した撮影を実施する。